

森の日記

2024年10月6日～2025年2月9日

by 迷鳥キツキ

10月6日はエゾリスの頭数調査（エゾリスセンサス）と今年最後のチョウの調査を行いました。朝の6時半にハグクーム前に集合し、5つのルートに分かれて、それぞれのルートを歩く間に遭遇するエゾリスの頭数を数えました。また、エゾリスのエサになるチョウセンゴヨウの毬果を木の上にまだ着いているものと、地面に落ちているものに分けて数えました。私は帯広の森の運動施設群を縦断するルートに参加しました。いつもこのルートを担当している女性1人と私を含めて男性2名で行動しました。このルートは日頃エゾリスが多く出現するルートだそうです。約2.5kmを歩く間に5頭のエゾリスを確認しました。チョウセンゴヨウも豊作で多数の毬果を数えました。他のルートでも多数のエゾリスを確認できたようです。



左：開始前の説明



右：最初に見たエゾリス。

チョウの調査はエゾリスセンサスを終えたのち朝10時から12時半頃まで行いました。



左：チョウの調査中の一行。



右：ベニテングタケ。

気温も低かったためか、モンシロチョウ、モンキチョウ、ルリシジミ、クロヒカゲなどを数頭ずつ見かけただけでした。調査開始前の待ち時間に会員の方が実家付近の山で採ってきて下さったコクワの実を頂きました。また森の中ではヤマブドウが熟していて少し食

べることができました。チョウは少なかったですがルート上の花や木の実、キノコなどを観察しながら楽しく歩くことができました。

10月14日はエゾリスの会主催の「トヨタソーシャルフェス」（北海道新聞社後援、トヨタ自動車協賛）が、帯広の森のいつもの活動地点で行われました。一般市民から参加者を募集し、JICAの森林管理研修の研修員も招いて、帯広の森を育成する活動について説明し、参加者皆で森の中のチョウセンゴヨウの実生木を抜き取る作業を行いました。チョウセンゴヨウの実実はエゾリスが冬の間の貯蔵食料として土の中に埋めるためどんどん発芽して増えますが、自然の姿に近い森を作るためにはチョウセンゴヨウばかりが増えるのは望ましくないためです。参加者は幼児から年配の人まで幅広く集まりましたが、チョウセンゴヨウの抜き取り作業を楽しんで下さったようです。JICAの研修員さんたちも遅く作業に参加してくれました。天気にも恵まれ、往復の道沿いの紅葉も美しく、私も楽しく時間を過ごすことができました。



左：準備作業の説明



右：開会を待つ会員スタッフ。



左：JICAの研修員さん。



右：まとめの会で発言する参加者。

10月28日にはエゾリスの会の集合地点に設置してあった気温と地温のロガーを回収し、新しく設定したロガーを設置してきました。同じロガーを清流地区の自宅の家庭菜園にも設置してあります。読み出した過去1年間の気温と地温のデータから以下のような傾向がわかりました。① 森の中では低地の家庭菜園よりも

気温・地温ともに冬期には暖かく、夏期には涼しい。気温・地温の変化も低地よりも穏やかである。② 森の中での地温は厳冬期にも 0℃より高く、地表の土壌は凍らないため、動植物の生存越冬のために適した環境が提供されている。

回収した気温・地温データを私のホームページに載せました。

https://tsutsuki.net/special_Ezorisu.html#Temp_2023-24



左：新しく設定した温度ロガー。 右：森の中に設置。

12月1日はオミナエシの移植と播種を行いました。この活動は11月17日に予定されていましたが、雨のため今日に順延されたものです。10年ほど前（私がエゾリスの会に入る前）に、オオアワダチソウが繁茂していた森林伐採跡地で、オオアワダチソウを除去したのちに、帯広の森の中の他の地点からオミナエシの種子や小さな個体を移植しました。オミナエシは無事に定着したのですが、最近になって、森の中では他の雑草や低木によって生育が阻害され、一部は遊歩道の上に進出して繁茂するようになってきました。遊歩道の上では草刈り作業によって刈り取られる恐れがあるので、今日は遊歩道の上で繁茂していたオミナエシを、あらかじめ8月18日の活動でオオアワダチソウを引き抜いておいた森の中の開けた場所に移植しました。また種子も散布しました。土壌凍結のため作業は困難かと思いましたが、皆さんの奮闘のおかげでなんとか作業を終えることができました。



左：オミナエシの掘上げ。 右：定植後軽石を敷き踏み固め。

この作業のあと、観察小屋の掃除と巣箱の掃除をしました。巣箱の一つには今年シジュウカラが営巣したので、巣の中にはコケなどの巣材がぎっしりと詰まっていました。ヒナが巣立ちしたあとこの巣はもう使われないので、巣材を取り出しました。巣材の中には微小な生き物がたくさん住んでいました。コウモリ用の巣箱の中からは作りかけの小さなハチの巣を回収しました。どの種類のハチが作ったものかわかりませんが、早い段階で放棄されたもののようです。フクロウ用の巣箱からはチャイロスズメバチの巣を回収しました。これも比較的小さなものでした。巣の中にはチャイロスズメバチの死骸数頭分とまだ生きているクロスズメバチの女王蜂1頭がいました。クロスズメバチはチャイロスズメバチが去ったあとの巣を越冬用に利用したものようです。前回は雨にたたられましたが、今日は2回分の活動をやり終えることができました。



左：チャイロスズメバチの巣。 右：活動終了後の挨拶。

12月15日は野鳥観察と1年をしめくくる望年会（冬至祭）が行われました。朝7時頃、家の庭での気温はマイナス13℃くらいでしたが、朝9時頃、帯広の森の集合地点ではマイナス3℃くらいでした。鳥類調査はいつものように3班に分かれて行いました。私は最初の班に入り、記録係をしました。リーダーさんや他の会員さんが見つけた鳥の名前と羽数およびその時の鳥の行動を記録する役目です。リーダーさんは遠くの小さい鳥も判別できますが私にはなかなかできないと思います。

望年会は観察小屋の前で焚火とストーブを焚き、持ち寄りの食材を料理して楽しみました。私は妻が用意してくれた鍋料理の材料を持っていきました。食材にはさまざまなものが提供され、すっかり満腹になりました。



左：第1班メンバー。



右：結氷した第2柏林台川。



左：焚火で棒パンや焼芋を焼く。



右：望年会終盤。

1月13日は2025年最初のエゾリスの会の活動として、朝9時から鳥類調査が行われました。高齢者から幼稚園児まで多くの参加者が集まりました。気温はマイナス4.5℃、深さ10cm, 20cm, 30cmの地温はそれぞれマイナス0.5℃、+0.8℃、+1.8℃でした。いつものように20分置きに出発する3班体制で調査し、私は第2班に入りました。朝から小雪が舞う曇天だったので、鳥の活動は活発ではありませんでした。しかし、調査小屋から第2柏林台川の谷にかけての森のなかでは、たくさんの鳥の声を聞き、姿を見ることができました。ハシブトガラ、シジュウカラ、コゲラ、アカゲラ、ツグミ、ヒヨドリなどを観察できました。



左：集合時の様子。



右：第2柏林台川付近。

1月19日はいつもの調査活動場所で倒木、かかり木、落枝などの片付け作業を行いました。初めは間伐の予定だったのですが、雪が少なくて倒木の片付けが楽にできるということで、片付け作業をすることになりました。調査場所の中央の道の両脇の森の中で、チェーンソーで切ってもらった倒木を運んだり、落枝を探して運んだりし

ました。森の中は背丈くらいの稚樹が密生しており、足元には蔓性の木が這っていたりするので、無理な仕事をしたわけではありませんが、なかなか大変でした。今日は全部で15本くらいの木を片付けることができ、森の中はかなりスッキリしました。



左：集合時の様子。



右：倒木の片付け。

2月9日は間採作業が行われました。久しぶりにカンジキを履きました。森の中は雪が深く積もっていたので、集合場所の近くでブンゲストウヒとキタゴヨウを1本ずつ伐採しました。私は伐採後の枝落しや丸太の運搬を手伝いました。風の強い日でしたが森の中は穏やかで、雪景色を楽しみながら作業をすることができました。



左：伐採されたブンゲストウヒ。



右：雪遊び。

3月16日にも里山づくりの活動が予定されていますが、私は所用で参加できませんので、2月9日までの報告とさせていただきます。